

「日中植林・植樹国際連帯事業」

中国大学生友好交流訪日団 第1陣（地方間交流）参加者の感想（抜粋）

○ 今回、日中植林・植樹国際連帯事業に参加し、東京臨海広域防災公園を見学し、地震に対処するための準備や避難、地震発生後 72 時間に取りべき行動などの知識を学んだ。日本では普段の生活にも環境保護や防災の意識が浸透していることに感心した。また、早稲田大学や沖縄科学技術大学院大学の先生の講義を聴き、私たちの周りの生態環境の重要性や環境問題の深刻さについて認識を深めた。沖縄県立芸術大学では、両国の青年の友好交流を表す桜の木を一緒に植え、環境保護に貢献する固い決意を表明した。公式行事以外でも、日本について認識を新たにすることとなった。初めての日本訪問で状況がよくわからず、出発前は非常に心配していたが、日本へ到着すると不安は少しずつ払拭された。受け入れ側のスタッフはとても親切で、細かいところまで十分な配慮をし、毎日私たちに同行してくれたので、とても安心だった。また、訪問先の人たちも非常に親しみやすく、温かく私たちを歓迎してくれた。レストランやホテル等で出会ったスタッフたちも皆、明るい笑顔で私たちを迎えてくれたので、とても感謝している。誰に対してもどんな事に対しても、友好と思いやりの気持ちで対応し、どんな時も「ありがとうございます」の言葉を忘れないようにしたい。

○ ①「マークは文字がわからない人に見てもらうものであり、文字は文字がわかる人に見てもらうもの」と言われるが、日本のゴミ分類が細かく明確であることに驚いた。中国の多くの地域では大雑把な文字による表示しかなく、子供やお年寄りが分別をするのは難しい。国民の分別意識を高める上で、障害になっていると思う。

②沖縄では県民が文化を守る、つまり継承し発展させていくために多大な努力をしていることを強く感じた。沖縄空手会館、琉球舞踊と音楽、さんごの養殖と保護など、社会人も学生も皆、自分ができる方法で地方文化を守る努力をしていることに、大学でよい成績を取ることをばかり考えている私たち学生は目が覚める思いだった。「社会に出る」だけでなく「社会に入る」、つまり社会に貢献することをもっと重視すべきである。

③何事にも両面性があるように、日本人は細やかであるが故に、社交儀礼が面倒なものとなり、適応するのは難しい。これは私がずっと心配していた問題だが、今回の交流を通じて日本人が友好的で繊細だと感じたので、もっと客観的に日本社会を評価できるようになると思う。近い将来、また日本へ来たい。

○ 参考にすべきところ：まじめに仕事に取り組み、細かい部分にも配慮し、何事も事前に細かな計画を立てて実行していること。生活面では、小さいことから取り組み、リサイクルできるものは再利用して無駄にせず、資源の節約に貢献していること。

中国と異なるところ：近年、中国でも環境保護や防災意識の教育を重視しているが、日本に比べるとまだ十分ではない。

帰国後、周りに伝えたいこと：

- ①日本は清潔で環境保護を重視する国である。
- ②秩序があり、人のことを考え、接客態度がよい。

③沖縄の景色、特に海が美しい。旅行する価値がある。

○ 植樹活動と東京臨海広域防災公園の視察を通じて、大自然の災害の前で人類がいかに小さい存在であるかを感じた。一回の地震ですべてを失うかもしれないのだ。「人間の力は必ず大自然に打ち勝つことができる」と言われるが、大自然を変えるよりも、大自然に順応すべきである。自然に敬意を払い、感謝して地球で暮らすことだ。東京大地震のビデオを見た後、人類がいかに小さいかを感じずにはいられなかったが、同時に人類は偉大だとも思った。大地震の後、防災することを学ぶのだから。日本はうまく防災活動を行っているが、それは地震などの災害がよく起こるからだ。中国でも大きな地震が発生し、多大な損害が出ているので、今後、予防方法や国民の防災意識という点で日本からもっと学ぶとよい。日本と中国は文化が似ており、日本は中国から学んだとよく言われるが、今回の体験を通じて、私は両国の文化には大きな違いがあると感じた。それぞれの文化に優劣はなく、違いがあるだけだ。「さんご畑」を視察した時に感動したのは、「子孫にこの目の前にある美しい海を見せたい。だからさんごの養殖を始め、危機に瀕しているさんごを救うのだ」という言葉だった。このような持続可能な発展の考え方は学ぶべきだと思う。中国でも持続可能な発展が提唱されているが、国土面積が広いと、各地の発展レベルには大きな差があり、国民の意識も不十分。日本に学び、持続可能という考え方を心に植え付けたい。

○ 今回の日本訪問で最も印象深かったのは、日本人が熱心で真面目、親切であること。今回の活動で、日本側の手配は全行程漏れがなく、突発的な事態にもすぐに対処していた。日本側の事務局はとても熱心で楽しい人で、中国語専攻ではないのに中国語がうまく、バス移動の時間を利用して次の行程の説明や案内をしてくれた。沖縄では準備してきた歌も披露してくれて、楽しく過ごすことができた。各所で日本人のマイノリティに対する関心の高さも感じることもできた。例えば、エレベーターの前の低い位置には身体障害者用のボタンが設置され、自動洗浄機能付きのトイレもあった。自分も今後、日本人のように一つ一つのことに一生懸命対応したい。また、日本の環境保護にも感動した。例えば、さんごや魚を守るために、さんごを育てて海へ移植していること、沖縄科学技術大学院大学がさまざまな面で沖縄のために尽力していることなど、とても印象に残った。防災問題では、日本が社会生活をテーマとした公園をつくり、防災知識の普及を行っていることに驚いた。これは将来的に大きな役割を果たし、多くの人を救うことになるだろう。今の中国はこのような活動が不十分だと思う。中日友好協会、日中友好会館、日本の外務省が私に今回の機会を与えてくれたことに感謝する。とても印象深く、多くを学ぶことができた。

○ 今回の活動を通じて、日本という国の魅力や、日本人が善良で友好的であることを感じた。日本側の同行者に感謝している。日本人が皆、善良で友好的であることを周りに伝え、中日間の友好を知ってもらいたい。

日本を訪問したことのある人は、日本が清潔で、日本人が親切で礼儀正しいことに惹かれる。それ以外に私は、日本では公共の場で身体障害者に便宜が図られていることを感じた。障害者用トイレの設置、通路のスロープなど、皆、他人への思いやりを表している。この点に非常に感動し、参考にすべきだと思った。

日本の大学生との交流を通じ、日本ではアルバイトや一人暮らしをする学生も多いことがわかった。これは学生の独立心や自主性を養うのにとってもよい方法であり、私たちにも必要なことだと思う。

全体として、今回の交流活動を通じ、日本側の細やかな手配に非常に感動した。もっと多くの人に両国の友好関係を理解してもらい、私自身も中日友好のために力を尽くしたい。

○ 参考にすべきところ：日本では防災知識の普及活動が行われ、国民の防災意識も高い。中国はこの点で日本の経験を学ぶべきだと思う。特に地震がよく起こる青海、四川、甘粛等の省では防災知識を普及させ、国民の災害対応能力を高め、死傷者を減らすべきである。また、日本では環境問題が非常に重視されている。沖縄科学技術大学院大学を訪問した時、学校の建設にあたって周囲への環境破壊をできるだけ抑えるため、橋脚をなくすという難度の高い特殊な工法を用いて橋をつくったという説明があり、とても印象に残った。「さんご畑」の視察では、さんごの生存状況は厳しく、今後各方面で環境を保護する必要があることがわかった。

相似点：中国でも今、環境保護が重視されており、さまざまな措置が講じられ、普及活動に力を入れている。今後は他の国の成功例を参考にすべきである。

相違点：環境保護関連施設の見学は、とてもよい学習方法である。中国では、他の大都市の学校にはあるのかもしれないが、私自身は学校に入ってからまだ環境関連の活動に参加したことがない。中国でも社会にある施設と協力し、このような活動を行うべきだと思う。

周りに伝えたい情報：日本はとてもきれいな国であり、今回出会った日本人は皆親切で礼儀正しく、私たちのために十分な準備をしてくれた。すべてのスタッフの尽力に感謝している。今後機会があればまた日本、そして沖縄を訪れ、旅行や留学をしたい。周りの人にも美しい景色を楽しんでもらいたい。

○日本の大学生との昼食交流会が大変印象に残った。皆それぞれ異なる国から来て、異なる文化背景を持っているが、交流の中でたくさんの共通の話題を見つけることができた。共通の趣味や、共通の SNS やアプリなどは、両国の同世代の若者の距離をより近づけてくれる。日本の大学生にも是非中国に来て、私たちの国の文化と空気を体験してほしい。